

【オリコンサルHD DX、人材育成に重点投資 海外はノンODA拡大】

オリコンサルHD DX、人材育成に重点投資 海外はノンODA拡大



オリエンタルコンサルタンツホールディングスの野崎秀則社長は、さらなる成長に向けて、社会に新たな価値を生み出す重点化プロジェクトと、それを担う人材の確保・育成に引き続き重点投資する考えを改めて強調した。30日に開いた2024年9月期第2四半期決算説明会で明らかにした。

野崎社長は「国内、海外と

もにDX（デジタルトランスフォーメーション）に注力していく。特に海外はノンODA（政府開発援助）拡大に向けてしっかり投資していく」との考えを示した。写真。人材の確保・育成では、キャリア採用、新卒採用とも積極的に進めていくとした上で、「業務責任者となる人材をいかにスピーディーに育成していくか、若手の成長をどう促し導いていくか。そこに重点的に投資していく」と話した。同社グループの2030年ビジョン・中期経営計画では、23年9月期での社員数3490人、技術士数1010人を、

30年9月期に5000人、1300人以上とする計画だ。

また、20期となる25年9月期を「一つのターニングポイントとなる」との認識を示した上で、「次の成長をどう考えるか、現在検討中」であるとして、連結売上高1100億円、営業利益70億円を目標に掲げるビジョン・中計の達成に向けた新機軸を打ち出す可能性も示唆した。

今第2四半期は、売上高が過去最高を更新した一方、重点化事業などへの投資費用が先行し営業利益は前期を下回った。受注高、受注残高はとも増加。海外は4年分の売上高に相当する1194億円の受注残高となっており、中期に安定した売上高確保に大きく寄与するとしている。重点化プロジェクトは国内、海外合わせて前期実績を3件上回る160件を実施中だ。通期では当初の計画どおり、売上高、営業利益とも過去最高の更新を見込んでいる。